

17 防災訓練で地域密着

埼玉県東部に位置する久喜市。東京から約50キロ圏内にあることから、都心部への通勤通学者が着実に増加している。

私が24年前から居住している久喜東地区は、JR宇都宮線(東北線)久喜駅から1キロ程度離れている。かつては自然豊かな田園風景が広がる一帯であったが、その後の建ち並ぶ住宅によって、町の様相は一変した。

地区の自治会役員を

地域と共生

日本鉄道OB会

練は行ってきたが、近年の想定外ともいえる地震、水害などの的確に対応できるようなと、地元消防署の指導を仰ぎながら、実践的な訓練にも取り組むよ

出し――を項目に挙げ



AED操作方法などを紹介する佐川さん(正面)

火▽瓦礫(がれき)下からの救護・救出▽三角巾による負傷者応急手当▽自動体外式除細動器(AED)の取り扱い方▽非常炊き出し――を項目に挙げ

た。今後の住民の防災意識の醸成につながる。と考えている。

いっなくなつて物騒な世の中である。住民の安心

(東日本鉄道OB会 大宮地方本部南彩支部 佐川富吉、73)

18 朝日豊年太鼓踊

滋賀県湖北地方は、歴史的にみても多くの民俗芸能が継承されている地域です。

私が育った米原市朝日地区には、1300年前から伝わる雨乞(ご)いの踊り「朝日豊年太鼓踊」があります。

五穀豊穡を祈願して神社に奉納する太鼓や鉦(かね)を打ち鳴らして踊る祭事で、市内で唯一の国の選択無形民俗文化財に指定されています。

一説によると、天正11年(1583年)に起きた賤ヶ

地域と共生

日本鉄道OB会

岳の戦いで、勝ちをおさめた羽柴秀吉が陣鉦(じんがね)・陣太鼓(じんだいこ)を打ち鳴らしたところ、大雨が降り出した。それ以来、踊りの際には鉦や太鼓を用いるようになったそうです。

私は八幡神社の秋の祭事「朝日豊年太鼓踊」はもちろん、滋賀



地域の民俗芸能を守り続けている村田さん

鳴らしたところ、大雨が降り出した。それ以来、踊りの際には鉦や太鼓を用いるようになったそうです。

私は八幡神社の秋の祭事「朝日豊年太鼓踊」はもちろん、滋賀

近年、後継者不足が深刻化しています。そこで、この夏休みには小学生男女40人への指導・育成にも当たりました。

生まれ育った地域との触れ合い。さまざま活動を通じて、今後も地域との共生を進め

(西日本鉄道OB会 大阪地方本部近江支部 村田健造、68)

〓おわり〓